九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

若者の職業キャリア意識と家族 : 高校生の職業希望に関する追跡調査より

吉本, 圭一
雇用職業総合研究所

https://hdl.handle.net/2324/18531

出版情報：中央調査報. (383), pp.1-5, 1989-09-10. Central Research Services
バージョン：
権利関係：

平成元年9月10日発行．毎月1回 10日発行．昭和45年7月30日 第三種郵便物認可．©1989 社団法人 中央調査社

No. 383

1989・9

中央調査報

（主な内容）

○ 若者の職業キャリア意識と家族 …… 1
○ 電気製品も激しいシエア争い… 6
○ 平成元年3月末日現在の住民基本台帳による人口・世帯数… 8

■ 若者の職業キャリア意識と家族

――高校生の職業希望に関する追跡調査より――

雇用職業総合研究所 吉 本 圭 一

1. はじめに

本稿では、高校生の追跡調査をもとに、若年者の職業キャリアの展望や職業希望の形成プロセスを明かにし、またその規定要因として保護者の就業形態や子供への希望などの家族の影響について検討する。

職業達成、職業的アスピレーションに対する家族の影響については、これまで最終的な到達地点と入口がもっぱら注目されてきた。しかし今日では、新規学卒採用・年功処遇・終身雇用といったいわゆる日本的雇用の特質が、モデルとしても現実にも変容しつつあり、それまで辿って職業的な経歴―就業上の地位や就業形態の変化、企業・職業の移動など―のほうがより関心を引くようになっている。つまり、どのような職業キャリアのパターンがあり、それが職業生活スタート前の希望や展望とどう関連しているのか、それに出身背景の影響がどう及ぶか、などの問題が設定できる。

また、職業キャリアのスタート時点の若年者の現実を振り返ると、今日離転職の増加やフリーアルバイターの出現など、そのキャリアと意識の変化・多様化がさまざまに論じられている。この青年の意識構造の問題についても、ふれてみたい。

雇用職業総合研究所では、1985年から「高校生の職業希望に関する調査研究」を実施しており、以下この調査を紹介していく。調査対象は、労働市場の特性をもとに選んだ全国6地域の、高校23校（普通科10、工業科6、商業科6、家庭科1）の高校生である。方法は、同一対象者の追跡調査で、第1回調査は対象者が1年生時点の1985年6～7月に実施し、そのあと第2回（2年生時点）、第3回（3年生時点）と毎年同じ時期に追跡調査した。第1回から第3回まで全調査への有効回答者は2,119人である。

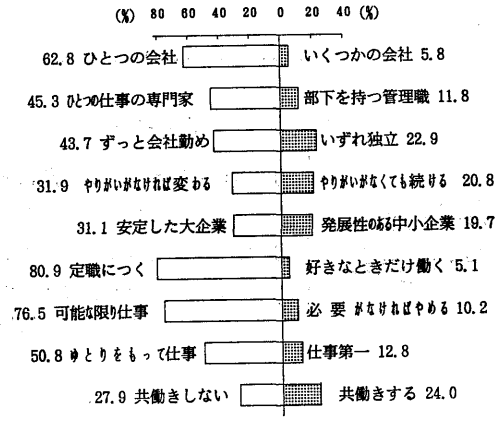
また、今回は検討しないが、現実のキャリアがどう展開し、職業意識がそれにどう結びつくかという点は、われわれのもっとも知りたいところである。そこで、1988年から同調査対象者の一部（対象者数1,850人）を対象として、高校卒業後の初期的な職業キャリアの展開をたどる追跡調査研究を開始しており、すでにその第1回目（高卒1年目）の調査を実施している。

2. 職業キャリア観

1） 職業キャリアと職業生活の展望

最近、若者の職業への取り組みを評して、「新人類」というレッテルが造られている。今いる職場に積極的なアイデンティティーをもたず、ちょっと嫌になると職を転々とし、なかなか一人前の職業人になれない、それどころか最初から組織に入るつもりのないフリーアルバイターが出現している、という。職業キャリアの多様化が予想され

(図1) 職業生活・キャリアの希望



る今日、若者は、どのような職業キャリアや職業生活を送ろうとしているだろうか。いくつかのキャリアの組合せについて希望をたずねた。

(図1) のように、①職種・離転職などにかかわる職業キャリアについては、大企業にはいり、やりがいがなければ転職するが、ひとつの仕事の専門家として、できればひとつの会社でずっとサラリーマン生活を送るというのが、高校生たちが希望の多数派がパターンである。

また、②仕事の仕方とか職業生活といったライフスタイルに係わるところでは、好きなときだけ働き、必要がなければ仕事はやめてしまうというフリー志向とか職業離れの若者は、さすがにごく例外的である。他方、仕事第一というわけではなく、ゆとりをもってのんびりとやっていきたいということになる。

働き蜂の企業戦士志願はさすがに少ないとしても、職業キャリアの展望については、大人たちの意識や現実とほとんど差がなさそうである。また、これらのさまざまの組合せに「どちらともいえない」という回答も多くあり、今後職業生活をスタートして希望・展望ができあがっていくということが予想される。

ちょっと意外なのは、共働きについてである。

(表1) 保護者の職業と高校生の職業キャリア観 %(実数)

	会社勤め	どちらともいえない	独立	合計 100.0%
農林漁業	38.6	35.1	25.4	(114)
商工サービス自営	35.7	32.6	31.4	(678)
民間サラリーマン	49.1	32.8	17.5	(869)
公務員	47.2	32.1	19.6	(271)
その他	46.0	32.6	20.3	(187)

注) 表頭の無回答は表示していない

全体では肯定派・否定派が同じくらいに分かれており、男女差が大きい。女子では肯定派が35%もいるのに対して、男子ではわずか13%にすぎない。また、女子の方が共働き希望が多いとはいえ、結婚してまで仕事をしようとは考えない否定派の女子も26%いる。今日の女性の職場進出の流れとはやや落差があるように見える。

2) キャリア観と家族的背景

保護者の職業(就業上の地位)別にみたキャリア観の違いが最も大きいのは、「会社勤めか、独立自営か」についてである(表1)。また、「ひとつの会社か、いくつかの会社か」という面でもかなりの違いがある。

保護者が民間のサラリーマンや公務員のばあい、安定した大企業に入り、ずっとその会社に勤めるキャリアへの希望が多い。公務員の子弟については、同様に安定した大企業でずっと勤める希望が多い。それに対して、自営業や農林漁業の子弟では、むしろ発展性のある中小企業にはいり、機会をみて転職あるいは独立するというキャリアへの希望が多い。なお、この関連は学年とともに弱まっており、若者にとってのキャリアの見本は、次第に、保護者の職業上の特質だけでなくなるのであろうか。

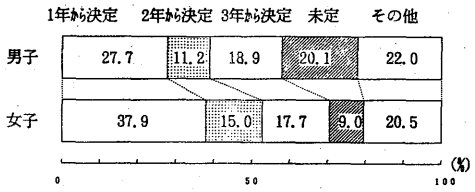
女子の共働き志向については、(表2) のように保護者の職業的な影響が大きい。保護者が公務員の女子で共働きの希望が強い。また、母親の就業形態別にみても、正社員の母親をもつばあい、女子の半数近くが共働きを志向し、共働きを否定するのは17%にすぎない。母親が無職のばあい、4割が共働きをしないと答えている。

(表2) 共働き志向と家族の影響 %(実数)

性別	学年	共働きする	どちらともいえない	共働きしない	計
男子	3年	13.1	56.6	29.4	(1077)
女子	1年	21.1	41.8	36.4	(1042)
	2年	27.0	46.7	26.0	(1042)
	3年	35.3	36.9	26.3	(1042)
保護者	農林漁業	32.8	37.5	26.6	(64)
	商工サービス自営	31.3	35.8	31.3	(316)
	民間サラリーマン	34.5	39.6	25.0	(432)
	公務員	36.7	39.5	21.8	(147)
	その他	54.2	22.9	21.7	(83)
	正社員	45.0	37.5	17.2	(331)
母親	パート	36.3	37.0	24.0	(292)
	家業	30.2	38.3	29.6	(162)
	無職	21.9	34.3	42.3	(137)
	その他	28.3	36.7	34.2	(120)

注) 表頭の無回答は表示していない

（図2） 職業希望形成のパターン



注）1, 2, 3年各年次の「就きたい職業」決定状況によるパターン

3. 職業の希望

1） 職業希望の形成プロセス

職業への参入を前にして、進学するにせよ就職するにせよ、高校生たちは自分がつきたい職業を次第に意識していく。1年生時点から一貫してつきたい職業が決まっている高校生は33％であり、逆に高校生の15％は、3年間ずっと就きたい職業が見つからないままでいる（図2）。性別では、女子の方が希望を早い段階で決めており、男子では希望形成がおそく、3年間ずっと希望が決まらなかったという者も20％いる。

2） 希望職業

高校生たちの希望職業は、（表3）のように進路希望別に比べると、就職希望の男子では建設・製造の職業希望がもっとも多く、以下専門・技術的職業、公務員などとつづく。就職希望女子では半数近くが事務職を希望している。これらは、実際の就職実績とはかなり隔たりがある。進学希望者では男女とも専門技術職志向が強く、とくに大学や専門学校希望の女子のばあいに著しい。専門学校希望者では、保安・サービスなどの職業の比率も高く、未定の比率が低いことがわかる。

（表3） 進路希望と職業希望（3年時）

性	進路希望	専門技術	事務	販売	建設・製造	運輸・通信	サービス・保安	公務員	その他	未定	合計
男子		20.6	3.9	3.0	11.2	6.6	5.9	17.8	30.9		(1068)
	大学	29.6	2.5	2.5	0.9	3.1	7.1	12.0	42.3		(324)
	短大	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	50.0		(10)
	専門	34.6	3.0	1.5	12.0	15.8	1.5	12.8	18.8		(133)
	就職	11.2	5.5	3.9	17.9	6.4	6.4	22.3	26.3		(543)
	未定	16.7	0.0	0.0	11.1	5.6	0.0	5.6	61.1		(18)
	その他	27.5	0.0	2.5	5.0	10.0	5.0	27.5	22.5		(40)
女子		28.4	25.9	6.6	1.8	8.4	2.3	8.9	17.8		(1036)
	大学	70.3	2.7	0.9	0.0	4.5	0.9	2.7	18.0		(111)
	短大	45.9	9.6	1.4	1.0	3.3	1.4	8.1	29.2		(209)
	専門	59.6	10.6	0.7	2.8	7.8	0.0	7.1	11.3		(141)
	就職	3.2	42.3	11.5	1.9	11.8	3.8	11.3	14.3		(532)
	未定	27.3	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	54.5		(11)
	その他	50.0	15.6	3.1	9.4	3.1	0.0	3.1	15.6		(32)

注）希望職業は自由回答をアフターコードしたもの

（表4） 保護者の職業と高校生の希望職業（3年時）

性	保護者の職業	専門技術	事務	販売	建設・製造	運輸・通信	サービス・保安	公務員	その他	未定	合計
（男子）	農林漁業	14.3	4.1	2.0	12.2	6.1	10.2	20.4	30.6		(50)
商工サービス	自営	18.9	2.8	3.1	12.5	7.2	5.0	18.9	31.7		(362)
民間サラリーマン		21.2	4.8	3.5	9.7	5.5	4.8	17.7	32.7		(437)
	公務員	28.7	4.9	1.6	7.4	6.6	11.5	15.6	23.8		(124)
	その他	17.5	2.9	2.9	17.5	9.7	4.9	15.5	29.1		(104)
（女子）	農林漁業	30.2	25.4	11.1	4.8	12.7	0.0	4.8	11.1		(64)
商工サービス	自営	25.1	27.6	7.9	1.6	11.1	1.6	9.5	15.6		(316)
民間サラリーマン		27.9	25.1	5.8	1.6	6.3	3.5	10.2	19.5		(432)
	公務員	40.4	15.1	6.2	1.4	9.6	2.1	5.5	19.9		(147)
	その他	20.7	42.7	2.4	2.4	3.7	1.2	8.5	18.3		(83)

さて、この高校生の職業希望と保護者の職業との関連をみると、（表4）に示すように保護者と同じ就業の形態を希望する傾向がみられる。男子のばあい、公務員子弟で公務員を多く希望しており、また表示していないが、商工の自営業子弟で自営・家業希望が多い。さらに公務員、民間サラリーマン子弟では専門的・技術的職業や事務の職業の希望が多く、農業子弟では建設・製造の職業を希望する者が多い。

女子でも、保護者の職業との対応がみられ、公務員子女のばあい専門職志向が強く、保安・サービス職や販売職については、農林漁業層や商工自営業層で多くなっている。また、公務員・民間サラリーマンの子女では、希望未定の高校生も比較的多くみられる。

3） 職業選択の条件

つきたい職業を決める際に高校生が重視する条件としては（表5）、男女とも性格や能力が生かせることが最も多くあげられている。男子では、女子とくらべて、失業のおそれ・発展の可能性などに注目しており、より長期的な展望と関わっている。女子では、職場の雰囲気とか就職できる見込みなど比較的目前の問題が中心になっている。

保護者の職業的背景からみると、男子では、農業子弟では失業のおそれや地元就職に関心を持ち、発展可能性や性格をいかすことなどはあまり重視しない。商工自営業の子弟では、家族の希望も他より多くあげられている。それに対して、公務員子弟は性格・能力がいかせることや職場の雰囲気を多く重視している。

女子では、商工自営業層の子女で職場の雰囲気や失業の心配などが強くなっている。

また、つきたい職業が決まっていない高校生に

（表5） 職業の選択条件（保護者の職業別）

MA. %.（実数）

性 ＼ 保護者の職業	能力・性格	職場の雰囲気	就職見込み	失業のおそれ	何を扱う職場	収入が多い	発展の可能性	休日が多い	資格・必要な職業	企業の大きい規模	地元に就職	世間に知られた企業	家族の希望	合計
男子	75.0	58.1	55.7	63.2	51.9	45.7	46.4	37.7	26.8	25.5	17.0	15.5	7.3	(1077)
農林漁業	68.0	56.0	62.0	68.0	54.0	48.0	34.0	36.0	24.0	22.0	22.0	12.0	2.0	(50)
商工サービス自営	72.9	56.6	54.1	61.3	47.8	47.5	47.8	39.5	29.3	22.9	14.9	15.5	10.8	(362)
民間サラリーマン	74.8	57.9	56.3	62.9	53.1	46.5	49.2	38.4	24.3	28.4	19.7	17.2	5.3	(437)
公務員	82.3	66.1	58.9	71.8	50.8	44.4	46.0	39.5	27.4	25.8	15.3	16.3	6.5	(124)
その他	77.9	55.8	51.9	58.7	61.5	36.5	36.5	26.9	29.8	24.0	12.5	10.6	7.7	(104)
女子	79.4	70.0	69.0	58.7	47.1	42.5	32.3	36.9	36.9	23.8	25.4	16.2	12.2	(1042)
農林漁業	75.0	56.3	65.6	54.7	45.3	46.9	31.3	34.4	35.9	15.6	18.8	21.9	20.3	(64)
商工サービス自営	78.5	74.7	69.9	62.0	50.0	42.4	35.8	36.7	33.5	27.2	24.7	17.1	11.1	(316)
民間サラリーマン	80.1	69.9	69.0	57.2	47.0	41.2	31.0	38.2	36.6	23.8	24.8	14.6	11.1	(432)
公務員	81.0	70.1	68.0	55.8	42.9	46.3	25.9	38.1	40.8	21.1	29.9	19.0	13.6	(147)
その他	79.5	62.7	69.9	62.7	45.8	39.8	38.6	31.3	45.8	21.7	28.9	12.0	13.3	(83)

注）表頭の無回答は表示していない

ついて取り出してみると、選択条件は、男女とも保護者の職業的特性との関連はほとんど見られなかった。すなわち、希望職業が固まらない時には、まだ家族の職業のことは念頭にないが、希望職業を決定したあとでふりかえれば、結果的には、選んだ職業にも選んだ条件にも保護者の職業による差異が表われているのである。

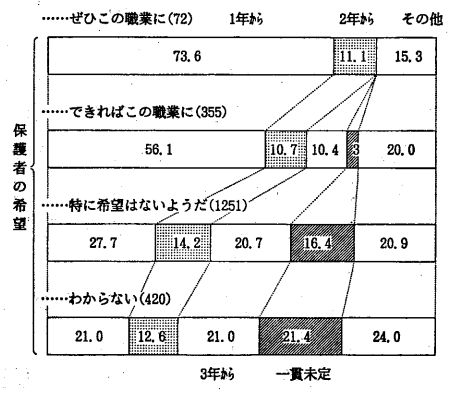
4. 子供に対する保護者の希望

1） 子供に対する希望の有無

家族の職業的背景が高校生の職業希望の形成に大きな役割を果たしていることがわかってきたが、その影響経路のひとつは、保護者の考え方が職業的背景によって異なるためと考えられる。

保護者が子供への具体的な職業の希望を持っているのは、1年生時点では男子のうち15%、女子で25%である。こうした保護者の無関心は、その後高校生が職業希望を形成するさいの問題へとつながっいる。保護者が何か職業について具体的な希望を持っているばあい、（図3）のように、高校生の4分の3が1年生の頃から自分の希望を決めている。ところが、保護者の希望が特にないとか、希望があってもそれが子供にはっきりと伝わっていなかったりすると、希望職業を決めるのが遅くなったり、3年になっても希望未定でいる高校生も多くなっている。保護者がはっきりとした希望を示せば、それに同調するにせよ、反発するにせよ、子供なりに自分のつきたい職業を考える契機になるのではないかと思われる。

（図3） 保護者の希望別にみた職業希望形成パターン



子供への希望職業の有無について、保護者の職業による違いをみると、男女とも、自営業や農林漁業の保護者ほど子供への希望職業が具体的にある者が多く、逆に民間サラリーマンでは子供にどんな職業についてもらいたいのか特に希望を持たないばあいが多くなっている。

2） 保護者の希望する職業

保護者の希望する職業をみると、男女とも、本人の希望以上に公務員を希望する保護者が多い。特に、男子では、公務員が具体的に職業名があげられたうちの3分の1を越えている。また、女子生徒の保護者では、専門的・技術的職業と事務の職業とが並んでおり、次に公務員がくる。生徒自身の希望と比べて、保護者には、公務員の希望が多い。

このように、保護者の子供に対する職業希望は、特定の職業に集中しており、また、図表は省略するが保護者の職業（就業上の地位）によって違いがある。公務員の保護者では、職業希望がある者のうち、その4割が男子に公務員になってほしいと期待している。また、自営業の保護者の自営業への期待も強い。

女子に対しては、公務員の保護者では、公務員も多いが、それ以上に専門・技術的職業が多く希望としてあげられており、希望の62%に達している。この比率は、農材漁業層39%、サラリーマン層24%、自営業層21%であり、大きな開きがある。逆に、事務の希望の比率は、逆の関係であり、自営業層やサラリーマン層ではむしろ事務職希望のほうが多くなっている。

3) 子供に求める職業選択条件

保護者が子供に求める職業選択条件は、高校生自身の条件とくらべてみると、性格よりも安定して失業がないことの方がウエイトが大きくなっている。また、地元で就職できることも多くが重視しており、女子に顕著である。

ここでも、保護者の職業によって、希望する条件は異なっており、(表6) のように、男子では、農業の保護者では地元就職についての話が多く、自営業や公務員では親と同じ職業にという話があり、また公務員サラリーマンでは安定性や将来性の話が多い。女子についても、類似した傾向がみられる。

5. まとめ

高校生の希望する職業やキャリアをめぐる意識は、基本的には、「新人類」などと話題になるほど大人たちの職業観と異なっているわけではなく、大企業での長期雇用を期待しており、管理職よりも専門職を志向するなどの特徴がみられる。そして、生徒の希望のパターンは、保護者の職業形態にかなり類似したものになっており、男子でとくに顕著である。また、共働きの志向については、母親の就業、特に正社員であるかどうかによって大きな差が生じている。

こうした関連はいかにして形成されているのか、保護者の子供への接し方もあわせて考えてみよう。自営業、農業層では、職業生活の現場が目に見えており、経済的に家族が保有してきた生産手段やそのノウハウを伝達することに大きな関心があり、あるいは後継を期待しないばあいでも子供の職業への関心が強い。その結果、高校生の側も、自営後継を含めて職業的キャリアの展望やつきたい職業が具体的にイメージされやすい。

他方、民間サラリーマンの保護者のばあい、子供に対して特にどの職業についてほしいという具体的な希望が子供に伝わっていない。もともと親の仕事場やその働きざまは目にふれず、子供の目にうつるのは、ただ会社に雇われているという事実だけであり、職業内容についての情報がほとんど得られないのだろう。保護者が公務員のばあい、子供への希望がないわけではないが、その期待する職業は圧倒的に公務員である。子供のほうは多様な考え方をしているのに、そうした選択の幅を、保護者が狭めているのかもしれない。

このように、保護者の職業的背景によって、その子供への期待も異なり、若年者の職業キャリアをめぐる意識形成への影響もちがった形をとることが明らかになった。

なお、実際の職業キャリアの選択にあたっては、教育の影響なども考えていく必要がある。つまり、学業達成による選抜や学校の教育・指導などにもとづく選択によって出身背景の影響が小さくなるかもしれないし、あるいはそうした出身背景の影響を強めるように選抜や指導がなされるかもしれない。この点については、今後高卒後の追跡調査をつづけながら、検討を進めていきたい。▲

(表6) 保護者が子供に話す職業選択条件 (保護者の職業別)

MA. %. (実数)

性	保護者の職業	安定して	性格にあう	将来性	地元で就職する	収入が多い	社会的評価が高い	親と同じ職業	その他	そのような話はない	合計
男子		63.5	53.0	42.8	23.1	22.4	17.4	3.9	1.7	11.2	(1077)
	農林漁業	58.0	44.0	24.0	36.0	24.0	16.0	0.0	0.0	18.0	(50)
	商工サービス自営	59.4	53.0	40.9	18.5	23.8	14.4	7.2	2.8	10.5	(362)
	民間サラリーマン	58.0	55.8	46.2	27.0	23.3	19.5	1.4	1.1	10.3	(437)
	公務員	62.1	44.4	41.9	23.4	16.9	21.8	6.5	0.8	10.5	(124)
	その他	63.5	55.8	45.2	16.3	19.2	14.4	1.9	1.9	15.4	(104)
女子		61.2	58.4	38.6	37.3	23.6	18.9	2.2	2.1	8.2	(1042)
	農林漁業	64.1	56.3	34.4	46.9	18.8	9.4	0.0	0.0	7.8	(64)
	商工サービス自営	61.1	58.2	39.6	35.1	23.7	20.9	3.5	1.9	9.2	(316)
	民間サラリーマン	60.0	61.1	36.8	38.0	24.8	18.5	0.5	3.0	8.1	(432)
	公務員	64.6	55.1	40.8	37.4	23.1	16.3	6.1	0.7	6.8	(147)
	その他	60.2	53.0	43.4	34.9	21.7	25.3	1.2	2.4	7.2	(83)